

ゆめのほとり

— 認知症グループホーム 福寿荘 —

いつかぼくにもそんな日が来る。
ゆめのほとりに浮かぶ船。
この世に住処をなくしても、
心に歌が生きている。

友部正人（シンガーソングライター）

『妻の病』が肖像画のように描かれたタブローなら、
『ゆめのほとり』は儚い今を捉えたスケッチ帖だ。
いせひでこ（画家・絵本作家）



でもね きっと
心は全部わかってるんですよ

生き生きたということ。
なるほど。

細谷亮太（小児科医 俳人）

ゆめのほとり……
知ることよりも
感じることも、
言葉よりも
表情、
私よりも
あなた。
それが大切に思える
ところです。

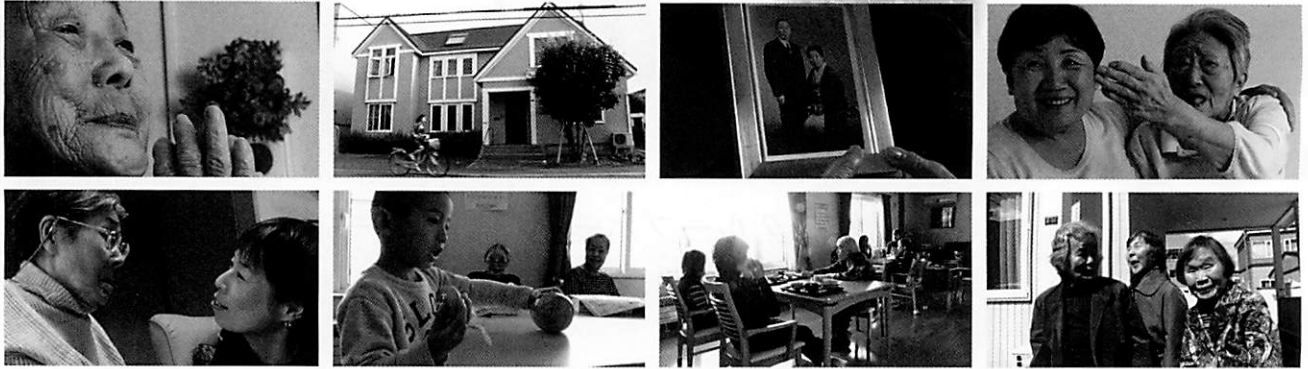
岩永正敏（企画コーディネーター）

認知症の人は“何もわからない人”ではありません。
“本人なりの思いや願い・できる力を秘めている人”です。
グループホーム 福寿荘で暮らす人々の、
生き生きとした心をスケッチしたドキュメンタリー。

認知症グループホームを舞台に、一人ひとりの物語をスケッチした
穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。

ゆめのほitori

— 認知症グループホーム 福寿荘 —



シッ、静かに・・・。

——人を好きになること。

ヒューマンドキュメンタリーを創るのに特別な才能はいらない。人を好きになることができれば、それでいい。

縁あって二年間程、認知症のグループホームに通い、おばあちゃんおじいちゃんたちにカメラを向け続けた。素敵だなあ、と感じさせるお年寄りたちに引き寄せられるように撮影が始まり、いつの間にか四季は巡り、気がついたら編集に悩み苦しみ、やがて音楽が奏でられ、映画ができていた。

「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめよう。ただただ寄り添い、耳を澄ませてみよう。そんな想いで創りあげた作品だ。

そこにはいつも一人ひとりの呟きが、笑い声が、寝息が、そして歌声が、聴こえていた。もうとっくの昔に旅立ってしまった我が母とよく似た雰囲気のおばあちゃんは、目が合うとニコリ笑いかけてくれるので、つい依怙鼻屑して、たとと撮影した。そのおばあちゃんは、自作の歌を即興でつくって唄ってくれたり、突然「みんな寂しいわ……」と言い出したりもした。賛美歌を唄うおばあちゃんの傍には、数え歌を唄うおばあちゃんがあった。軍歌を唄うおばあちゃんと「そんな歌、唄っちゃいけない!」と喰ってかかるおばあちゃんのケンカ。そばに誰かが居てくれることの、人と人が関わっていくことの幸せのようなものが、そこにある気がした。

およそ八畳程の個室は、故郷の写真、亡き連れ合いとの写真、孫たちの写真などで、どの部屋も賑わっている。別れて暮らしている人も死んでしまった人も一緒に居るんだなあ、と思う。喋るのが苦手になり、何も語らないお年寄りたちの心のなかも、それぞれの想いや願い、夢で一杯なのだろう。

認知症の専門的なことは、よくわからないけれど、ほんのしばらくお付き合いして言えることは、認知症の人は「何もわからない、できない人」ではなく、「本人なりの思いや願い、できる力を秘めている人」だということ。「喜怒哀楽を共にしている人」という真実だ。

偶然のように出逢ったお年寄りたちに、すっかり惚れ込んでしまった私は、その想いを映像や音や音楽に託した。そして、ラブレターのような映画ができた。

『ゆめのほitori』

もしかしたら、片想いかもしれない。きっと片想いにちがいない。

認知症グループホーム 福寿荘を舞台にした、おばあちゃんおじいちゃんたちの生き生きとした群像ドキュメント。

シッ、静かに……。

「いのち」の息づかいが聴こえてきますよ。

(演出・伊勢真一)

グループホーム 福寿荘のこと

北海道・札幌市にある施設。アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症など、重症・軽度さまざまな症状を持つ42名の認知症の人々が共に暮らしている。武田純子代表が「一人を大切に」「支え合う心」「安心して暮らせる社会づくり」をモットーに2000年に立ち上げた。

伊勢 真一 (いせしんいち)

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。「奈緒ちゃん」「えんとこ」をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手がけている。「風のかたち」文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞、「大丈夫。」キネマ旬報文化映画第1位、「傍(かたわら)」キネマ旬報文化映画第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ倶楽部賞受賞。近作は「シバ 縄文犬のゆめ」、「妻の病—レビー小体型認知症—」。

- 出演 —— 認知症グループホーム 福寿荘の仲間たち
ご家族のみなさん 武田純子 職員のみなさん
- 題字 —— 細谷亮太
- 撮影 —— 石倉隆二 世良隆浩
- 音響 —— 米山晴
- 録音 —— 渡辺彦彦 永肇康弘
- 照明 —— 工藤和雄
- 編集技術 —— 尾尻弘一
- 整音 —— 井上久美子
- 主題曲 —— 「マイムマイム」
- 編曲・演奏 —— ママクリオ(クリスティス うえむらまさゆき 大野ミチル ロケット・マツ)
- レコーディングmix —— 小俣佳久
- 絵 —— うえむらまさゆき
- 宣伝デザイン —— 森岡寛貴
- 企画・制作補 —— 遠藤郁美
- 上映デスク —— 鷲見真弓
- 制作デスク —— 増馬則子
- 制作協力 —— ヒボコミュニケーションズ 一限社
- ハチプロダクション
ジエングラフィック
- 上映協力 —— MOCプロジェクト
- 企画・製作 —— いせフィルム
- 演出 —— 伊勢真一

お問合せ いせフィルム www.isefilm.com

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階
TEL: 03-3406-9455 FAX: 03-3406-9460 E-mail: ise-film@rio.odn.ne.jp

映画「ゆめのほitori — 認知症グループホーム 福寿荘 —」公開

2015/11/21(土)
~2015/12/4(金)
各日11:40~1回上映

※「ゆめのほitori」上映後、下記日程で伊勢真一監督との
ゲストトーク・監督の舞台挨拶あり。

- 11/21(土) 武田純子(「ゆめのほitori」出演者・福寿荘代表)
- 11/22(日) 石本浩市(「妻の病」主人公・小児科医)
- 11/23(月・祝) 伊勢真一(「妻の病」「ゆめのほitori」監督)
- 11/29(日) 土井敏邦(映画「記憶」と生きる」監督)

同時上映 ※各日10:00~「妻の病—レビー小体型認知症—」(伊勢真一監督作品)

前売り1,300円 当日 一般1,800円 大・高1,500円
シニア・中・小1,000円

リピーター割引: 当日及び会期中この上映のチケット半券持参で1,000円

新宿駅東南口階段下
甲州街道沿道ドコモショップ左入
新宿 K's cinema
03(3352)2471
www.ks-cinema.com
各回入替・整理券制

